

令和 8 年 7 月 10 日
自己点検・評価委員会

はじめに

本学は、人材養成に関する目的及び教育研究上の目的並びに社会的使命の実現に向け、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受け入れの方針）を基軸とした内部質保証体制の下、継続的な自己点検・評価を実施しています。近年は特に「学習成果の可視化・言語化」を中心とした教育の質保証及びその体系化を推進しています。

令和 7（2025）年度は、これまでの点検・評価結果を踏まえ、各学科の取り組みの質をさらに高め、全学的な底上げを図ることを目指し改善を進めました。

1. 教育・研究の質向上に向けた取り組み

（1）学習成果の可視化・体系化

令和 7（2025）年度第 1 回自己点検・評価委員会において、教育の内部質保証について前年度に引き続き「学習成果達成状況の言語化」、「学習成果達成の情報公表」などの達成目標を設定し、各学科においてその目標達成に向けて取り組みました。その結果、各学科においてルーブリックや振り返りシートを通じて学生自身が成長を認識・実感できる取り組みが行われるなど、学習成果の可視化・体系化がさらに進展しました。併せて、学生の学習成果の獲得状況や成長実感について、各学科の特色を活かした多角的な情報公開が継続的に実施されています。

（2）高大接続教育の強化

各学科において、入学者の学習状況や適応状況等を踏まえ、初年次教育や学習支援の充実に取り組みました。入学直後から導入教育や基礎的内容の確認を行い、段階的に専門教育へとつなげる指導が行われています。

また、クラス担任を中心とした個別面談や日常的な学生の状況を学科全体で把握することにより、学生一人ひとりに応じた支援が行われており、学習の継続及び大学生活への適応を支える体制が整備されています。

短期大学の特色である少人数教育と手厚い学生支援は、教育活動全般を支える重要な基盤となっており、学生の学びと成長につながっています。

（3）ゼミナール・卒業研究の充実

ゼミナール及び卒業研究においては、学生の学びの深化を目的として、上級生の研究発表に低学年の学生が参加する取り組みが継続的に実施されており、早期から学習への理解を深める機会として有効に機能しています。また、各学科において、ルーブリックを活用し、研究過程や成果を学生自身が可視化できる仕組みが整備されています。短期大学の限られた修業年限内においても、ゼミナール活動や卒業研究を通じた探究的な学びの充実が図られています。

2. 学生のキャリア形成支援への取り組み

キャリア形成支援については、令和 7（2025）年度も引き続きクラス担任やゼミ担当教員を中心に学科とキャリア支援課による教職協働の連携強化に努めました。1 年次よりキャリア教育を通じて早期に学生自身のキャリア意識の向上を図り、各学科とキャリア支援課が連携してシームレスな支援を行いました。その結果、令和 7（2025）年度卒業生の実就職率は 94.7% となり、引き続き高水準を維持しました。

特に保育科では、令和 7（2025）年度も公立幼稚園教諭・公立保育士への高い合格実績を維持しました。幼稚園・保育所・認定こども園への就職者を安定的に輩出しており、地域社会を支える専門職人材の育成機関としての使命を果たしています。また、各学科において、4 年制大学への編入学など進学を希望する学生への支援も継続的に行っており、学生の多様な進路の実現につながっています。

就職先については、上場企業や女性活躍企業（「くるみん」「えるぼし」認定企業）などへの就職状況が引き続き堅調でした。上場企業就職率は前年度を超える 51.9%を達成するなど、安定的に高水準を確保しています。このように本学のキャリア支援は適切に実施されており、今後も各学科とキャリア支援課の連携を強め、学生が希望する進路を実現できるよう支援してまいります。

3. 学生募集（定員充足率向上）への取り組み

少子化の進行や、進学ニーズの多様化、女性の 4 年制大学志向の高まりなど、短期大学を取り巻く募集環境は大きく変化しています。こうした中、オープンキャンパスへの来場促進やプログラムの充実、広報活動の強化に取り組みましたが、入学定員充足には至りませんでした。こうした状況の背景には、短期大学で学ぶ意義や、本学の教育内容や学習成果などの強みが受験生に十分に認知・理解されていない可能性があります。また、近年は前期型（年内）入試で進路を決定する受験生が増加しており、特に短期大学では早期の志願者確保が一層重要となっています。今後は、本学の教育内容や学習成果、各学科の特色をより分かりやすく発信し、短期大学で学ぶことの意義や魅力の理解促進を図り、受験生との早期接点拡大と志願者確保につなげていきます。

4. 社会貢献・地域連携の取り組み

令和 7（2025）年度も各学科の専門性を活かし、地域との連携活動を実施しています。保育科は、まっどソング研究グループが、松戸市からの依頼を受け、松戸市立博物館と松戸市戸定歴史館の連携特別展において体験イベントを企画・実施しました。また、子どものアート研究グループは、「アートパーク 18～きみたちはどうアソブか～」において、地元の保育園と連携したワークショップを開催しました。総合文化学科は、昨年度に引き続き地域企業と連携し、コラボメニューを開発しました。加えて、地元松戸市の自治会と連携したイベントの企画・運営を行うなど、各団体と連携した取り組みが行われています。

これらの活動は、学生が実社会と関わる中で学ぶ機会となっており、専門性の理解と実践力の向上に寄与しています。

まとめと今後の方向性

以上のとおり、本学の自己点検・評価は有効に機能しており、教育研究活動の改善は着実に進展しています。特に学習成果の可視化・体系化については、学生が学習成果獲得状況を言語化し、自らの成長を認識・実感する取り組みが進展しています。併せて、学習成果達成状況の公開も進み、教育の質保証の基盤として定着してきています。

また、ゼミナールや卒業研究等を通じた実践的な教育の充実や、地域社会との連携による教育活動の展開など、本学の特色ある教育は一層深化しています。

今後は、これまで構築してきた仕組みを着実に運用するとともに、その効果を継続的に検証・改善しながら、学生一人ひとりの学びの充実を一層推進し、継続的な教育の質向上に取り組んでまいります。

以上